

# 道標

母方の親戚の一人が松山で弁護士をしていますが、昨年でしたが、この先生とお会いしたとき、最近、東京に行ったのはいつごろかという話題になりました。すると、家族で東京ディズニーに行った数年前のこととおっしゃいます。なるほど、仕事もあるし、子ども連れて東京まで行くのは大変。用事でなければ、わざわざ都会まで行かないものだと納得しました。実際、愛媛にお住まいの多くの人は、

## 地方の生活、都会の生活

川田 篤  
弁護士・弁理士



仕事か冠婚葬祭でもないし、なかなか都会まで出かけないかもしれません。

地方の方にとり、東京は、テレビ、新聞、雑誌、インターネットなどを通じて知る存在になりそうです。しかし、メディアが紹介する東京は、実像でもない気がします。都会でも、地方と変わることなく、淡々と日々の暮らしをしている人がほとんどです。一見、華やかそうな生活をしている人は、ほんの一握りでしょう。

地方と都会の生活との違いをあえて挙げる、例えば、美術展を見に行きたいとします。めばしい美術展の多くは、東京のみの開催も少なくありません。そのためか、愛媛新聞にも東京の美術展の案内が定期的に掲載されています。また、プロ野球の試合を観戦したい

とします。愛媛マンタリンパイルーツは日々応援できますが、セリーグ、パリーグの坊っちゃんスタジアムでの開催はたまのことで

す。あるいは、コンサートに行きたいとします。人気グループなら全国ツアーもあるでしょう。しかし、私の事務所がある日比谷公園の野外音楽堂で開催されるマニラックなグループの地方開催は難しく、少くも変わったものは、都会でないと楽しめないかもしれません。

しかし、東京に住んでいても、展覧会、スポーツ観戦、音楽会に行くのは、まれなことです。私の日々の生活は、起床後、ラッシュを避け、やや遅めに玄関を出て、郊外電車に乗車。混雑を避けてもなお、快速急行や急行はすし詰め。つまり車につかまれる準備を選び、

## ふるさと伝言

地下鉄を経て、小一時間で日比谷公園内の事務所に到着。夜遅くまで仕事をしてから帰宅。夕食をとるうち、時刻も午前になり、就寝。これが、私の平日です。

土曜の朝は、日ごろの寝不足がたたり、正午近くまで寝ています。たまたた仕事を手付けするため、寝床からはい出し、午後はしばしば事務所にいきます。土曜の夕べ、野外音楽堂からぞぞぞ出てくる観客を横目に仕事を家に持ち帰り、日曜も仕事の続き。こうして週末も終わります。

松山の弁護士の先生とは、仕事の話もしました。夕方になると、大抵、すぐに帰宅されること。仕事に年中追われている同業の私には、やや驚きでした。最近、弁護士人口は急増する一方、地方にはもともと事件が少ないばかり

か、絶対数も全体に減り気味なのでそうです。なるほど、地方はゆとり仕事を余裕がありそうにも見えるが、実は仕事が少ないのかとも思い始めました。仕事の数だけでなく、産業も多くはなく、選択肢も少なそうです。

これでは、若者は都会に出て行きかねません。地方こそ新しい産業が必要なのは、いわずもがなでしょう。そのためには、創造力と資本力が不可欠です。しかし、外部の資本頼みでは、利益が出ないですぐ撤退してしまいそうです。国の補助金なども大抵は一時的で永続性はないかもしれません。地元企業が、伝統産業に加え、知恵を絞り、腰を据えて、新たな挑戦をし、好循環を生み出す以外に道はないように感じます。(かわた・あつし、本籍伊予市)